

一橋經濟學の七十五年

座談會

一橋經濟學の七十五年

出席者	
司會者	上田辰之助氏
來賓	高橋誠一郎氏
"	藤本幸太郎氏
"	武井大助氏
"	高垣實次郎氏
"	大塚金之助氏
大學側	井藤半彌氏
"	"
"	"
"	"
"	"
"	"
大學側	赤松要氏
"	村松恒一郎氏
"	上原專祿氏
"	杉本榮一氏
"	山中篤太郎氏
"	増田四郎氏
"	板垣與一氏

一橋大學への發展過程

上田 それではこれからお話を願いたいと思ひます。一橋大學は明治八年商法講習所として創立されました、その後名前が幾度も變りましたが、東京高等商業學校、東京商科大學、この三つの名前が大きな歴史上の目印でございます。明治八年から明治二十年までが商法講習所及び東京商業學校の時代でありまして、經濟學の方で申しますと、

前史に當るのでございます。これが十二年間、それから高等商業の時代が三十三年間で、一番長いのでございます。大正九年には大學に昇格いたしました、今日に至るまで三十年。結局十二年、三十三年、三十年という割合でございます。經濟學の關係におきましては特に專攻部の設立ということが最も重要な出來事でございます、それが明治三十年の六月です。その前に研究科というものがございます、それがその年に專攻部となつた

わけであります。福田先生は明治二十九年に研究科の最初の、かつ最後のただ一人の卒業生でしたが、恐らく日本における最初の商學士であつたでしょう。その専攻部が、やがて日本の各地に高等商業のできるに及びまして、それらの卒業生をも收容するということになりまして、日本最初の商業單科大學の實質を備えるようになりまし



福澤諭吉先生

た。今日グラヂェユエート・スクールすなわち大學院の制度がやかましく論じられていますが、専攻部はちようど商業學、經濟學における大學院に相當するものでありまして、將來日本にどんな大學院ができるか知りませんけれども、昔の専攻部はたしかに非常に参考になる一つの型を示したのもと思ひます。

それから、昇格後すなわち東京商科大学になりまして後の約十年間、これは第一次大戦後の景氣のいい時期でして、自由主義の最も高揚された時代でありました。これに續いて滿洲事變、日華事變、太平洋戦争という日本にとつて運命的な十年となりますが、一橋としては昭和五年(一九三〇年)五月八日に先づ福田先生を失ひ、昭和十五年(一九四〇年)の同じく五月八日には上田貞次郎先生を學長として失ひました。その後戦争がいよゝゝ烈しくなつて、しばらくブランクの時期が續きましたが、終戦後からはまたそろそろ回復しはじめ、日本の教育界も革新されるに至り、われわれの學園も一橋大學として發展をつづけることになりました。

前史時代の經濟學

そこでまず歴史的に申しますと、一橋經濟學の前史ともいふべき高等商業以前のころですが、商法講習所、東京商業學校時代における經濟學がどんなものであつたかというところにつきましてひとつ大先輩の先生

方に伺いたいと思ひます。この時代に經濟學を教えられた方々のお名前を拾つてみますと、横井時冬先生、天野爲之先生、和田垣謙三先生——田尻稻次郎先生はその時分じやないでしょうか。まあ外にもあるかもしれませんがせんけれども、はつきり以前と見きわめのつくのはそういう先生方ですが……。

高橋 商法講習所設立の趣意書を福澤諭吉先生が書かれています。森有禮さんと富田鐵之助さんに頼まれて書いたのです。

上田 それは初めて伺ひますが、私共にとつて、極めて重要な歴史的事實です。福澤諭吉先生が執筆者とは實に意外です。

高橋 先生が執筆者です。先生はこの趣意書の中でいろゝと商人に學問の必要なことを説いておられます。こんな話が出ると知つたらもつと調べて來ればよかつたのですけれども、要するに西洋各國では商人であれば必ず商學校がある。ちようど封建の世に武士があれば必ず劍術の道場があるようなものだ、そうしてこれまでのような商賣のやり方では外國人と太刀打ちすること

は出来ない、學問を基礎として大いに努力しなければならぬということを書つておられたと記憶します。その時、たしかホイットニーという人がアメリカから指導に來た。

上田 ニュージャーシー州のたしかニュー・ワークという町だと記憶しますが、其處の商業學校の校長さんです。滯米中森有



横井時冬先生

禮は日本に商業學校を新設することについて萬事このホイットニーと相談していましたが、結局ホイットニー自身來朝することになったのです。

高橋 そうですか。つまり、明治八年に商法講習所ができる一年前の明治七年に福澤先生が趣意書を書かれたのです。

上田 森さんはアメリカへ行つて、向う

一橋經濟學の七十五年

の様子を見て、西洋の「商法」を大いに學ばなければならぬということを東京府の誰だかに言つて來たのです。ところがこれに眞向から反對して、商業に教育なんか不必要だと唱えたのは誰だろうと濫澤榮一さんでした。濫澤さんのもとでは最も熱心な商業教育支持者となり、私共の學校の大恩人となられました。初めはそんなこともあつたのです。そういうことがございまして、やがて矢野二郎とか富田鐵之助とかいう人がこの衝に當ることになりました。

それから經濟學の方面からみて、この前史に當る時代はどういうことになりました。高橋先生、例えば横井時冬という人などは茲で問題となるのではないのでしょうか。

高橋 全然知りません。

上田 横井先生は商業史を教えていたのではありませんか、おそらく。

増田 私はそんなに古くないですから、

書物を通じてしか事情は知らないのですけれども、商業史という名前でも最初に講義をされたのが横井先生で、明治二十年の末こ

ろからだろうと思ひます。そうして私たちが殆んど必讀書としてよく讀みましたあの有名な「商業史」の第一版が出たのが明治三十年です。ほかの大學でもやつておられたか知りませんが、大體一橋の講義で三、四年やられた結果がああいう形をとつたのだらうと想像します。それから日本商工史というものがやはり三十何年から出て來て、それを講義されました。また横井さんの外に、「大日本商業志」の著者菅沼貞風氏が講義されたと聞いています。

板垣 商工歴史ですね。

上田 そうすると、前史といつてもごく終りにかかるかかからないかというので、この時分の經濟學の先生についてはほとんどわかりませんか。

板垣 商法講習所の創立當時の經濟學の授業要綱の中に、ウェーランドの經濟書なんかをテキストに使うようなことが出ておりますね。

上田 どなたがおやりになつたかということを知りたいのですが、和田垣謙三先生などは前史時代に屬しませんか。高橋

一橋論叢 第二十四卷 第三號

先生、どうでしょう。

高橋 もう少し遅れるんじゃないかな。ウエーランドを翻譯したのが慶應義塾の小幡篤次郎さんです。

上田 ところが小幡氏は講師のリストの中に入つてないので。恐らくお見えにならなかつたのでしょう。

藤本 土子金四郎というのがあるじゃありませんか。横濱火災海上の……。『經濟學』という薄い本で、悪い紙のがあります。たよ。ぼくも青年時代に讀んだことがあります。

福田博士の經濟史講義

上田 それでは日本の本論みたいなのと

ろに入るとしますと、どうしても高等商業時代の三十三年間が問題ですが、一橋の歴史において典型的な時代といつていいでしょう。それは一橋の經濟學にとりまして、最も重要な建設時代でありましたから、これについてお話を願いたいと思います。

明治二十年の十月に高等商業となつて、先ほど申しましたように三十年に専攻部がで

きたのですが、専攻部の歴史も決して坦々

たるものではなく、いろいろの問題がございました。武井さんなどは専攻部問題でずいぶん活躍されたのです。明治三十年から

大正九年の大學昇格に至るまでの話となりますと、この時代の中心人物で花形役者は何と申しましたも福田徳三先生であります。

ですから、福田先生を中心にして前後左右にお話を延ばして行つたらおもしろいだろうと思つたのです。今日のお集りの中で福田先生が一番古いお弟子さんはどなたですか。

武井 藤本先生です。

藤本 福田先生が西洋から歸られたのは何年ですか。

板垣 三十五年のようですね。

藤本 五年だと本科三年だから初めて講義を聞いた。それでアッシュレーを思い出

すのです。

井藤 「エコノミック・ヒストリー」

上田 二冊のね。

藤本 あれを使つた。四、五百ページありましたが、その講義が實に鄭重で、四方

八方へ伸びて、それを中心としてフランス、ドイツ、ロシア——例のミルのお話などま

で聞いた。皆非常に驚いて、一體學問とはこんなふうに関係ものかと非常に刺戟を受けたのを覚えておりますね。そうして黑板

へたくさんな外國語を非常な速度で書かれるのですよ。とてもぼくらついて行けないような恐ろしさを感じたね。今でもゾツとするくらいの刺戟を受けた。しかしそれが

若い人に非常な影響を與えていると思つた。經濟史ですね。經濟學というのですか、經濟原論ではなかつた。

板垣 科目としては商業歴史となつてい

ます。

上田 盛んにブレンタノ先生の名を擧げ

られた時代ですか。

藤本 それもよく聞いたね。

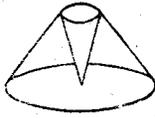
上田 あまりたび／＼出るものだから、

學生がブレンタヌキと言つてね。

杉本 朝鮮に行かれて、朝鮮經濟史を書

かれたのではなかつたですか。

上田 「經濟單位としての何とか」という論文のことですか。



経済組織がだん／＼大きく
なつて来ることを示したの
です。
藤本 同じようなことを
聞いたわけだ。

杉本 論文にその繪が載

つている。
藤本 その逆に行くことがおもし

一橋経済學の七十五年



福田徳三先生

藤本 經濟單位の話もよく聞いた。小
いのがだん／＼都市經濟に大きくなつて、
世界經濟になつた。ところがフアマリリーと
いうものは逆に行くと言つて、逆に繪を描
いた。今でも彷彿として思い出すね。非常
に興味を持つた。
高橋 先生、こういう繪を描くのですよ。
これは經濟單位がだん／＼小さくなつて、

ろかつた。

高橋 私どもの學生時代には、慶應義塾

ではハットヴァードから派遣されたウィツカ
ースという先生が来ておつて、經濟史を教
えておりましたが、その先生がカニンガム
を非常にありがたがりまして、カニンガム
とマツカーサーの共著をわれわれに讀ませ

るのです。そうすると福田さんはそれをわ
れわれの前で、冷やかすのです。カニンガ
ムをありがたがるのは頭が悪い。英國の經
濟史の大家としてはアッシュレーだとい
うことをしきりに言つておられた。けれど

も、アッシュレーは御承知のように中世ま
つた。近世までずつと書いているから、ウィツ
カース先生はカニンガムによつて講義をさ
されたのでしよう。

上田 その頃の福田先生のお弟子さんた
ちは、藤本先生が言われたように、歴史を
見直すと言いますか、歴史に對する興味を
非常に刺戟されたらしいですね。上田貞次
郎先生も、經濟における發展ということ
を福田先生から教えていただいた。これが非

常な刺戟になつて、遂に學者になる決心
をしたと言つておられた。

藤本 ぼくの前にも左右田君、あれがや
はり歴史が好きでコッ／＼と勉強しておつ
た。みな福田先生の影響を受けています
ね。

井藤 左右田先生は藤本先生より一年
くらい前ですか。

藤本 私と專攻部で席を並べていた。左
右田君は目が悪いでしょう。ぼくは、横に
おつて、ヴェンチッヒなどが黒板に字を書
くと先生わからないので、ぼくが書いてや
つた。

杉本 當時ヴェンチッヒは日本におられ
たのですか。

上田 もつと後ですよ。私どものときに
ヴェンチッヒさんは帝大で教えていた。

藤本 帝大と商大と。ぼくも習つた。

上田 そうするとなぜいぶん長くおられ
たのですか。

藤本 英語で講義した。

上田 その英語がわからなくてね。牛の
ことをビーフといつたといつて或學生が面

喰らつていました。(笑聲)

千駄ヶ谷讀書會

高垣 武井さんの見た福田さんをひとつ
……。やはり同じ時代だから。

武井 私は講義は聞かないのですよ。私
らの時代はちやうど先生が問題を起してや
められて、慶應その他へ行つておられたと
きですから、とき／＼學校をエスケープし
て慶應に聴きに行つただけです。ただ先生
のお宅は千駄ヶ谷で、千駄ヶ谷讀書會とい
う名前と呼んでいたものがあるのです。そ
れをお話すると、もうちよつと廻つて、實
は藤本先生が中心になつて學校でアダム・
スマスの國富論の輪讀會をやつた。ちやう
ど騒動の起りかけたときですよ。われわれ
の仲間は騒動に反對で、あんなことをした
い奴はしてもいいけれども、われわれはか
かり合うまいじゃないか、また大學昇格選
動もけつこうだけれども、大學生たるの資
格があるかないか怪しいのだから、その方
からやつて行こうという話を先生のところ
へ持つて行つたら、先生は喜んで、おれも

賛成だ、何か合うものに取つ付いたらよか
らうというのでやることになつたのがウェ
ルス・オブ・ノー・ジョンズです。

井藤 十数人でしたかね。

上田 どういう顔觸れですか。車谷さん
なんか……

武井 もつと若い連中です。酒匂とか、
住友におつた大島とか、正金へ行つていた
浦上とか、十人ばかりですね。それまでは
學校でやつていたのですが、福田先生は卒
業したらおれのところに來いと言われたの
で、學校を卒業したときに先生の家に引越
しました。それで大分顔觸れは變りました。地
方へ散つてしまつたから……。そのときに
先輩が参加したり、それから慶應の方も來
られた。先輩では車谷馬太郎、内藤章、田
崎仁義、その三人ですね。それから慶應か
ら小泉さんとか、三邊さんなども來られま
したが、兩方で十五人か二十人くらいでし
ようね。それで隔週土曜日に集まる、遅刻
したり缺席すると怒られる。無届で二回缺
席したら除名なんです。それで先生が當て
るのですよ。「内藤」とか言つて、先生の前

で讀ませられるのです。内藤さんなんか先
輩でしたけれども、仕方がない。讀むんで
すよ。そして何か研究して來て報告す
る。それを先生が批評してあとで話をされ
る。それからとき／＼おすしの御馳走が出
たりなんかして、われわれはあまり叱られ
ないで、御馳走になりながら教つたので、
非常に仕合せした方ですね。あれはなかな
か長く續きました。

當時の外人講師たち

高橋 商大にグリッフィンが來ていな
かつたかね。

上田 來たことはありません。

高橋 東大にはグリッフィンがおりまし
た。福田さんは慶應のウィッカースと東大
のグリッフィンの二人を比較して、ウィッ
カースはグリッフィン以上だと言つておら
れましたが、あのグリッフィンが日光の中
禪寺湖で溺死して、そのあとえ來たのは誰
れでしたらうか。

高垣 スブレーグがいた。

藤本 それがその次かな。ダンヴァーの

あとがスブリーグかな。

高橋 四十年頃かな。スブリーグ……。

高垣 そうでしょうね。

板垣 記録をみますと三十八年、九年になつていますね。

高垣 なんでも、日本へ来たときは交通政策と銀行論を持つてをりましたが、日本の学生は自分の英語がわからなかつたと見



O.M.W. Sprague

えて、試験の答案にイエスと書いてあつたのがあつた、これには閉口したと……(笑聲)

高橋 われわれの学生時代にラッドさんも一寸来ましたよ。

上田 心理學。

武井 東京大學へも行つていたかな。コンマーシャル・カレッジの方は學生が英語

がわかるというからわかたつともりでやつていたが、どうもわれわれのクラスは二、三人しかわからなかつたと言つたら、非常に失望していた。

高垣 「カンダク〜」と言うから、神田區かと思つたら、コンダクトだ。(笑聲)

「トマス・ダキノの經濟學說」の反響

板垣 福田先生の學問的な業績の中で、『トマス・ダキノの經濟學說』あれはその當時の學界に相當反響を起したものでなんでしょうか。

高橋 私どもは非常に打込んで讀んだものですね。

藤本 ぼくも讀んだな。

高橋 私は學生時代に大阪におつた友だちのところへ手紙を書いたことを思い出します、私もこの友だちも泉鏡花が好きで、會えば必ず鏡花の話をおつたのです。

その男がまた鏡花のことを書いて來ましたから、このごろ私は鏡花を讀まない、鏡花よりもつとおもしろいものを發見してそれ

を耽讀している、それは福田徳三さんという學者の書かれたものだという返事をやつたことを記憶しています。

板垣 明治三十六年から三十八年までの國家學會雜誌に發表されています。

高橋 あれで讀んだ。

板垣 あれはその後上田先生が……

上田 バトンを一部分引継いだわけでしょう。とにかく福田先生はあんな當時としては思いもよらないものを威風堂々と學問の七つ道具を使つて書いたのですから、譯もなく感心してしまつたのですね。(笑聲)

何しろ誰もトマス・ダキノなどという名前はきいたこともなければ、況んやその經濟學說に至つては夢想だにしなかつた時分のことですから、魔術にかかつたようにたどむやみに感心して、福田は偉いということになつてしまつて、あれで先生は博士になつたのです。とにかく松崎校長と喧嘩して母校を追われ、浪人して小田原の左右田さんの別荘で外務省の翻譯をやつて口を糊している時分、三十一、二歳の若きで相當値打ちの高かつた、推薦法學博士になつた

一橋論叢 第二十四卷 第三號

のだから、先生としては痛快でもあり嬉し
かつたのですね。先生の一生においてエポ
ック・メイキングな仕事ですよ。

武井 キリスト教的な信仰の匂いはあり
ませんか。

上田 それはまあないですね。先生のキ
リスト教関係はプロテスタントであり、ト
マスはカトリックですから信仰上には直接
の関係はないと思います。先生の留學され
たのはミュンヘンですが、もともと南獨は
カトリックの盛んなところで、丁度その頃
ミュンヘン大學にもトマス研究のリヴァイ
ヴァルがあつたらしく、先生もその刺戟を
受けられたのでしよう。

赤松 左右田博士が何かに書いておりま
すね。福田先生のほかに書いたものは滅す
るとしても、トマスの一篇だけは後世に残
るものだと。

高橋 左右田さんは、『トマス・ダキノの
經濟學說』のような雄篇を書いた福田徳三
さんが『ポアギユベールの貨幣論と三浦梅
圃の貨幣論』のようなあんなつまらぬもの
を書くとは何事だということを書いておら

れた。(笑聲)

上田 それは別の機會でしよう。とにか
く左右田さんのいまの絶筆は大したもの
ですよ。しかし今から考えると、よくもあ
んなに寝めちぎつたものだと思いますね、そ
れを人々が敢えて怪しまなかつたんですか
ら、結構な御世でしたよ。しかしそれだけ

日本の經濟學界の無風状態が想像されま
す。福田さんも若かつた、左右田さんも若
かつた、みんなが若かつたのです。すべて
がほほえましいね。(笑聲)

高橋 えらい宣傳で出されたものは『經
濟學概論第一編國民經濟原論第一卷上』

武井 一冊だけでしよう。
高橋 第一巻の上冊だけであとは出ずに
しまつた。

改革的自由主義者として

杉本 福田先生の當時の學界における位
置について伺いたいのですが、福田先生が
初めてドイツに行かれたときに、ロッシヤ
1)につく目的でおいでになつたのですね。
ところがロッシヤはもう亡くなつておつ

たので、ライプチヒでちよつと講義を聽
かれてからミュンヘンに行つて、ブレ
ンタノ先生……。

高橋 初めはライプチヒでビュッヒヤ
1)、それから問もなくミュンヘンでブレ
ンタノについた。

杉本 それで在獨中に日本經濟史のドク
トル論文を書きになつて、歸つて來られ
たときのデヴェューの仕方と申しますか、い
まのトマス・ダキノの經濟學說というよう
なものから見ると、歴史學派というよう
な形で出ておいでになつたのか、そうでなく
て、もう歴史學派に對して批判的な見方
おいでになつたのか。先生は、自分は歴史
學派の日本における最後の殿將だ、こうい
うことを一皮お書きになつたことがあると
思ふのですが、その當時の日本經濟學界と
いうのはどんなものだつたのでしようか。

歴史學派というものはあつたのでし
ょうか、なかつたのでし
ょうか。

高橋 今話の出た和田垣謙三さんだ
と、金井延さんだとかいうような人たちが
か、歴史學派や講壇社會主義者を紹介しておつ

た、金井延さんなんかは自ら講壇社会主義者をもつて任じておつたのではないでしよ
りか。そうしてその講壇社会主義が東大あ
たりのはだん／＼ワグナー流の国家社会主
義の方に向つて進んで行こうとしたのに、
福田先生はレフォルム・リベラリストと
申しますか、改革的自由主義者たちに共鳴
したんじゃないか。そうして東大に對して



和田辰三先生

は對抗的な地位にあつたんじゃないか。

イギリス流とドイツ流 —— 當時の經濟學界

上田 その限りに於いてイギリス經濟學
に近いでしょう。片一方はあくまで純粹な
ドイツ的。そこで私はおもしろいことを感
ずるのですけれども、經濟學の關係で一橋

は帝大にも接觸しているし、あるいはより
多く慶應と交渉をもつた。私學としては早
稲田とはあまり交渉がなかつた。師弟關係
も入り組んでおりますね。慶應と縁の深か
つたことは福田先生、上田貞次郎先生と
も同様でした。こちらの關係の人で武藤
長藏さんとか、幸田成友さんとかは慶應か
ら學位を貰つています。高橋、小泉兩先生
が福田先生の教え子であつたことは申すま
でもございませぬ。私は一橋の創立第四十
周年の際、慶應の鎌田塾長が祝辭を述べて、
この學校はこの次に發展するとすればよろ
しく私學になるべしと言われたのをきいて
印象が深かつた。そのくらい氣持の上では
慶應に近かつたのです。半官半民といいま
すかいわば帝大と慶應との中間ですね。一
橋の經濟學もちようどそれで、「民」的な部
分はイギリス經濟學の傳統を汲んでいまし
たし「官」の部分はドイツ經濟學の移入と
結びついていました。福田さんも兩面を持
つておられた。上田先生になると殆ど純粹
にイギリス的で、プロポーションは逆にな
ります。先生はドイツにも行かれましたか
ら英獨兩面あるわけですから、どちら
かというといギリスが本筋でした。
杉本 イギリス經濟學については、日本
ではその時分どんなことをやつておつたで
しょうか。天野爲之さんがジョン・スチュ
アート・ミルをお譯しになつたのは……。
高橋 ミルの經濟學が入つて來たのは割
合に早かつた。初め明治八年から十年にわ
たつて後の外務大臣子爵林董、あの人が翻
譯しました。それが初編の巻の一から五ま
で中絶してしまい、あとは同氏の校閲で鈴
木重孝の翻譯が出た。その後天野爲之さん
がラフリン版をとつて翻譯された。これは
全譯ですが、ただラフリン版をとつたとい
うことがまことに遺憾なことだつた。『高
等經濟學』という題で出ました。イギリ
ス流の經濟學で一番先に入つて來たものは
ウィリアム・エリスの『社會經濟梗概』
で、これはミル父子に負う所の多いもので
す。ですから最初に入つて來たものはミル
流の經濟學と云つていゝでしょう。このエ
リスの本は神田孝平さんがオランダ語から
重譯した慶應三年の『經濟小學』の原本で

す。

上田 林董のミル邦譯に關連して思ひだすのはベントムの「道徳及立法の原理」を陸奥宗光が「利學正宗」二巻として翻譯していることです。昔風の漢文調でなか／＼わかりにくいのですが、仙臺の獄舎で翻譯したものです。明治十六年の出版です。林、陸奥二人の外務大臣が、ベントムやミルを譯していることは歴史的に甚だ意味が深いと思います。そういう時代でしたね。

杉本 ミルを中心にした經濟學が日本に一應輸入されて、それが歴史學派に變つて行つたいきさつなどを伺うと、福田先生の位置というものが見當つきそうな氣がしますが……。

高橋 自由主義の經濟學説は民間では行われていたけれども、官邊には入つて行かなかつたようです。こつちの方は早くリストの翻譯が出たり何んかして、保護主義が有力であつたのでしようね。やがて東大あたりの文部省留學生が歸つて來て頻りにドイツの經濟學を紹介し始めたのです。ですから金井さんは歸つて來てひどくマーシャ

ルを攻撃しています。こんな本はイギリス人の目には新しいだろうが、われわれドイツで勉強して來た者の目から見ればあまり感服したものではない、この本の第二巻が出るときには十分に名譽回復をやつてくれろというようなことを言つておられるのです。イギリス流を傳えるものとドイツ流を傳えるものの對立があつたようです。

上田 福田先生はミルをあまり勉強しておられなかつたようですが、如何でしよう。

高橋 けれども、博士は慶應義塾でアツシユレー版のミルを使いましたよ。

上田 書いたものに、あまりミルのことがない。大塚さん、どうです、福田先生からミルについて何か教わりましたか。

大塚 聞きません。

上田 上田貞次郎さんはミル一點張りです……。

杉本 私ども學生のときに、學生だけでテキストを使つて讀書會をやるうと思つて、福田先生のところは何がいいでしょうかと聞きに行つた。そうすると、何をやる

か腹案を言えと言われるから、リカルドをやるうと思つて言いましたら、リカルドというのは非常に明晰で、お前たちがこれをこなすことはむつかしいから、指導者があるなら別だけれども、學生だけでやるならばミルがよい、こういうことを言われたのです。

推薦博士は經濟學から

上田 一橋の學問、ことに商學、經濟學の發達についてこういうことを私感するのですけれども、商學だけでは發展の見込は少なかつたのですね。それで經濟學が筋金として通るようになってから俄然内容が充實して來た。その中で一橋出身の先生方が當時の推薦博士になられたというのが大分氣勢を揚げるのに手傳つた。福田、村瀬、關、上田、内池、左右田といううな人、佐野先生は論文博士ですけれども、こういう方々が續々と博士に推薦されたり、論文でなられたりした。これが皆をずいぶん勇氣づけたように思うのです。藤本先生がここにいらつしやつて恐縮でございますけれ

ども、商學の方はあとまわしの形でした。下野先生其の他の偉い先生は出られませんでしたけれども、商學ではどうも博士推薦の關門が通れなかつた。聞くところによると、福田先生が博士會の中に待構えていて、出て来る商學の候補者をみんな落してしまつたという(笑聲)話です。下野先生なんかは推薦されると、簿記は學問にあらずと言つたのは福田さんだそう。そうすると學問でなければ仕方がないというので落しちやつた。

藤本 これはたいへんな災難だ。(笑聲)
高橋 その當時の福田博士の批評がまだ學士院あたりに残つていまして、この間なども推薦された人たちの中で、こういうのは困るということを學士院の老先輩がいうのですよ。それではどうしてその人たちの學者としての價値を認めないのかといえ、他に理由はないのであつて、ただ福田さんがこう言つておつたと云うのです(笑聲) いまだに福田さんの下した酷評がたたつていのです。

上田 ですから一橋の學問的發展という

一橋經濟學の七十五年

ことになる、經濟學というものは斷然大きな貢獻をしている。そうして何といつてもやはり福田先生が中心ですね。今日からみればいろ／＼の批評はできましようけれども、とにかくあの氣概と勉強ぶりは大したものですよ。

藤本 圖抜けていたから……。

福田博士のバトンはどこへ

杉本 福田先生の經濟學というものは非常に廣いものですね。今で言う理論經濟學、經濟政策、統計學、經濟史、何でも……

増田 私、それについて疑問ですが、福田先生の業績を見ますと、今杉本さんがおつしやつたように經濟史の部分が相當多いわけですが、學說史とか經濟學とかでバトンを受継がれた方はたくさん學部内におられ、外部へ出られた方に田崎さんとか坂西さんとか、經濟史をやられた方はありますのに、そしてまた日本では經濟史學界に與えられた影響が非常に大きいにもかかわらず、純粹な意味で經濟史を學問でやら

れている方がいない、そういう意味でのバトンを受継いだ方がないというのは何か事情があつたのですか。

上田 それは福田さんが大塚君に期待していたのですよ。何とか言いなさいよ、大塚さん。(笑聲)

大塚 近代的な經濟史學の立場から日本の經濟史の研究を始めた人はまず新渡戸先生、これは札幌農學校の初期卒業生です。

新渡戸稻造先生がドイツで「日本の土地所有、その分配及び農業的經營」というドクトル論文を一八九〇年に書いておられます。それに續いて經濟史に關するものでドイツで出たものとしては福田先生の「日本における社會的及經濟的發展」(一九〇〇年)これは先生自身が日本課にも書いておられるように、一章できるところに讀上げて、ブレンタノ先生に直していただいたもので、非常にブレンタノ先生の筆が入つていものと先生御自身も言つておられました……

杉本 福田先生が書かれた原稿をブレンタノ先生が直されている。原稿の裏にも書

一橋論叢 第二十四卷 第三號

かれています。その元の原稿が唯今商大の図書館にございます。

大塚 ところが、今お話の日本経済史が發展しなかつたということについては福田先生もいろ／＼と苦心なさつたようです。

河上肇さんなど學校へ來ていただいたのはその缺陷を補うつもりで來ていただいたのではないのでしょうか。そうしてもう一つの事情としては、日本経済史學派に偉大な人物が現われた。それは大正五年に劃期的な勞作の出た同文館の經濟大辭書の編集主任の一人である内田銀藏先生。この方は非常に熱心な研究家で、福田先生も經濟史については一月置いておられた。そういう方面に學者が出てしまつたので、ちよつと當時の高等商業としては日本經濟史の方に行くような氣風が出なかつたんじゃないかと思えます。

上田 それから坂西さんにも福田先生は期待しておられたんじゃないですか、經濟史の方面では。

大塚 坂西先生は西洋經濟史です。

高橋 福田さん自身も神戸で講義してお

られた。

大塚 神戸の何とか商業學校。

上田 初めは商業學校に就職して、のち母校へ呼戻されたのです。

アリストテレス論争

上田 さて、少し話題を轉じてお話をねがいたのですが、福田先生は平和主義者でなくて、ずいぶん威勢のいい方であつた。學問的にも、學問というものは論争の中から發達するというようなことをマルサス論に書いておられますが、御自分も四方八方に論敵をおつくりになつたりして、威勢よくやつておられましたので、その論争のこゝとを少し伺えないでしょうか。そういう論敵の一人であられた高橋先生もここにおいでになりますか……(笑聲)

高橋 わたしのは叱られたばかりで、論争というほどの論争はしていません。

板垣 高橋先生との間のアリストテレス論争。それから有名な河上・福田論争。また左右田・福田論争……。

上田 福田先生と論争するのはよほど勇

氣を要しますよ。一回で済まないから……。

板垣 福田先生の晩年の體系が『厚生經濟研究』(昭和五年)です。

その序文の中ではホブソン、ビグリー、キヤナン先生のあとを受けて自分はやるのだということをはつきり述べておられます。

あの書物の中心思想はアリストテレスの『流通の正義』の新しい解釋から發展したものです。それはまた他方において、マル

クスのアリストテレス解釋の批判、勞働價値説批判にも關連して、福田、河上論争にも引つ掛る問題ですが、あの『流通の正義』の解釋はあれで正しいのでしょうか。

上田 當事者に聞いては悪いよ。正しい、正しくないは別問題として……。

板垣 あれは非常に大事だと思つたのです。もしあの論争が先生の言う通りの確實な根據にもとづかないとすると、厚生經濟研究の體系は基礎づけられなくなると思つたのです。

上田 どういう事情でしたか、高橋先生。黙つてるところを頭をコツンとやられたのですか。それとも先生の方から發砲した

のですか。どつちがアグレッシヴで、どつちがデフェンシヴだったのですか。

板垣 高橋先生は、流通の正義は配分の正義じゃないというふうなお考えだったのではありませんか。そのところを少し……

高橋 昔のことは忘れてしまつた。

上田 あれはややこしいのだ。流通の正義だつて、交換の正義だつて、いろいろ呼び方が違うのだ、歴史の中で。

高橋 ほんとうに今御質問のあつたように純粋な學問的な問題としてあれを論じたならば、福田さんをあれほど激昂させずに済んだのでしょうか、當時は大分私も感情にとらわれていたのですよ。ことのおこりは、アリストテレスとははなはだ縁の遠いダッドリー・ノースの問題でしたよ。

上田 これはあなたの方が勝つよ。(笑)

高橋 ところが先生答えない。初めの二回は先生が明らかに間違われたと思う點や、氣付かれなかつたと考えた點を先生のお名前を出さずに指摘した。何か言われる

一橋經濟學の七十五年

だろうと思つていたのですけれども、言われない。そうして三番目か初めて私は福田さんの名前を出して、福田さんの文章を引用し、誤謬と私の考えたところを指摘したのです。それでも先生は何も言つて来られない。そうしているうちに、アリストテレスを先生が書かれたときに、あのころわれわれが『社會科學』という同人雜誌を吉野、末弘、土方、小泉などの顔ぶれで發行しておりまして、その中に私が『アリストテレス經濟學』というおそろしく長いものを書きますと、福田さんはそれを取上げてひどく私をやつつけられた。これは江戸の敵を長崎で討つというか、前のダッドリー・ノースの仇を今度はアリストテレスで討ちに来たなと思ひまして、それで福田先生を眞正面から攻撃したのです。私は先ず第一に近世の經濟學というものはその起源をルネサンスの時代に有するものである、近世の經濟學はその精神において、『萬學の父』アリストテレスに發するものではなく、かえつて、アリストテレスやスコラ哲學に對する反抗の時代に萌芽を發したものだと言

つたのです。福田さんに言わせると、西洋經濟學の黎明期はギリシアだつた、こういうのですよ。そうしてプラトン、アリストテレスを頻りにあげて、その脈がずつと傳わつていると言われる。私は西洋經濟學の黎明期というのは重商主義時代にあるのであつて、むしろギリシア哲學の影響は全然なしとは言えないけれども、それは極めて渺少なものであると言つたのです。そうすると、博士は、私を、この偉大な思想界の巨人を克服し終り、葬り去るものだと思はれたのです。

上田 弟なし師なしというのはどの關係で出た言葉ですか。あなたが謙遜して言われたのですか。

高橋 いゝえ、これは先生が言われたのではなかつたかな。

上田 論争の中に出て來ましたよ。

高橋 あれは梅北末初さんが『ギリシア經濟思想概論』を書かれた時でした。その梅北さんの論文に博士は自分で校閲を施し、序文ですか跋文ですかをつけて商大の機關雜誌に紹介された。

井藤 「商學研究」ですね。

高橋 これが何とかいうアメリカの經濟學者の書いた本と……

高垣 トレーヴァー。

高橋 そうでした、トレーヴァーに據り、また高橋の論文を参考した所が多かつたと梅北さんは断つてゐる。それから間もなく私がトレーヴァーを引用して、これを批評



晩年の藤田先生

したところが、博士はトレーヴァー輩の雜書までも縦横に列記したと云つて私を叱つたのです。そこで私は答えたのです、これはどういふわけか。トレーヴァーによつたという梅北さんの論文を推奨して、我が最高學府の一である商大の機關誌に掲載させておきながら、同じ本が今度たま〜私によつて引用され批評されれば、あの本は

俗書だ、雜書だというのは何事ですかと私は聞き直つたのです。それで、藤田先生は私にとつてはまことにありがたい先生なんだけれども、どうもこうした承服しがたいところがたくさんある云々と書いたのです。そうしたら先生が今度學問に師弟なし、こういうことを言われたのだと思ひます。それから間もなく先生は私信で、こんなことを云つてこられた……これは内證話になります……

上田 もういいでしょう、歴史だから、(笑聲)

高橋 私がアルベルト・マグナスを引いた。そうすると、お前は何によつてアルベルト・マグナスを引いたか、自分はアルベルト・マグナスの著作集を買おうと思つて古本屋のカタログに目をさらしたが、見つかるには見つかつたけれども、三百何圓とか云うことでどうしても買えないつた、なおこの點を大いに研究したいから、お前の本を私に貸せと言われた。實は私は何によつて書いたかと言へば、お恥しい次第だが、デイルとモンベルトのレーゼス

チュッケの中に抜萃があるでしょう。それによつたので、そのことを先生に率直に白状した。そうすると、先生はお前の中世經濟學說の研究はなほ物足りない、上田辰之助が言うのなら承服するかもしれないけれども、お前では承服しない、こういうことを言つてこられたことを覚えておりますよ。

上田 私信ですか。いつか發表してくださいよ。(笑聲)おもしろいところがありましたね、藤田さんは。

板垣 先ほどの流通の正義論はどういふふうに結着したのですか。

高橋 結局、うやむやです。私は、流通の正義は幾何學的比喩と算術的比喩の原則の二つから生ずるといふ解釋を取つたが、藤田博士はこれは鵠的だと云つて非難されました。

上田 しかし先生あんなにギリシア語をひねくりまわして何になつたかと思つただね。

板垣 あれが改造の論文で百ページあまりあるのですよ。

上田 實は先生のギリシア語、ラテン語はどのくらいのものであつたか、私にも分りません。兎に角、論敵を惱ますには十分深遠なものだつたと思います。それはむしろ日本の經濟學界の方が幼稚で無邪氣であつたともいえましよう。

資本論翻譯をめぐつて

高橋 結局あそこで河上さんをひどく攻撃したりしたのは「資本論」の翻譯の出版競争からですよ。初めは大鑑閣という本屋で出した。これは福田徳三校註と記されている。翻譯者は福田さん初め、左右田喜一郎さん、金子鷹之助さん、寺尾隆一さん、それに私。大塚さんも入つておられたですね。

大塚 はあ。坂西先生も。

高橋 こうした法學博士や商學士の間立ちまじつて、唯だ一人、學位も稱號も學校關係もない高島素之君がおつた。さて福田さんの註を入れることになると、それがまるで誤譯摘發みたになつた。一番先に高島君が怒り出した。それで結局われわれ

が抜け、しまいは福田さんも抜けてしまつて、あとは高島君獨りの仕事になつたわけなんです。けれども初めは福田さんはあくまでもあの翻譯を自分たちの力で完成させようとしておられたのです。そうするとそこへ河上さんのが岩波から出ることになつた。こいつはいかんと云うので、河上さんの誤譯を指摘することになつた。しかし、實際に指摘したのはゾウアントゾウだけですがね。(笑聲)

上田 おもしろかつたね、あの時分。

板垣 たしかあの時福田先生は改造に「河上肇氏らの資本論の誤譯惡譯不適譯について」という大げさな見出しで、いまのゾウアントゾウフィール、ゲルトを「若干の貨幣」と譯するのは間違ひであつて「貨幣に相當するもの」と譯すべきだというのです。ギリシア語のホソンという字はそう譯さなければ間違ひだというのです。しかし福田先生があれほど力説せられた點も戦後の長谷部文雄さんの譯などみても改められてはおりませんね。

杉本 そこまで行くと大分マルクスの研究も進んだあとでしょうが、一番初めの今お話の大鑑閣版のマルクス全集第一巻第一分冊、福田徳三校訂、あそこに出ているい／＼な譯語、たとえば價值増殖行程とか餘剩價值とか、ああいう言葉は福田先生がつくられた言葉じゃないでしょうか。

高橋 そうかもしれませんね。大分ありましようね。

板垣 厚生經濟學の厚生というのもそれでしようか、普及させられたのは。

上田 そうじゃないでしょう。能率というのがそうじゃないか。

杉本 效程というのはブレンタノと共譯の勞働經濟論、あのときからでしょう。

井藤 あのときに效程という言葉を使われた。それから後に、效程という言葉を使つたところがまずいからと、それで能率と改められた。

上田 それでは福田先生がつくられたんじゃないの？

井藤 ないかもしれません。

福田博士のマルクス研究

杉本 それで、マルクス経済學のいろいろな譯語の上に、福田先生の功績はあるだろうと思うのですが、福田先生がマルクスを初めて讀まれたのは、いつごろでしょうか。何かに書いてあつたと思ひますけれども。



河上 肇 先生

も、學校を退出されて、小田原の左右田さんのお宅に行つて蟄居しておつた、そのときに自分はマルクスを讀んだ、ところが千山萬水樓主人著の「社會主義評論」が福田の書物だと言われるのは心外だ、自分はマルクス研究の第一の先覺者であるし、第一人者なんだから、あんな間違つた書物を書く道理はない、ということです、先生のマルクス研究というのは何年ごろからだつたの

でしようか。

高橋 千山萬水樓主人の「社會主義評論」が出たのが三十九年です。

杉本 大體その時分のマルクス研究というのは堺利彦とか山川均、幸徳秋水などで、アメリカ版のマルクスだつた。そうすると福田先生は直接マルクスをお讀みになつた初めのうちの、少くとも一人といえるでしよう。

高橋 そうだろうと思ひますね。あの連中とは相當親しい交際があつたでしよう。ですから幸徳事件が發表されましたときに、私も、ちようど會をしていました。先生は號外を見て、自分は幸徳はよく知つてゐるけれども、そのほかの人間は一向知らないといつて不思議があつたので、すよ。當然あの中に入らなければならぬ。いろいろな人間が入つてゐないで、一向これまで名の知られてゐないような人間が入つてゐると不思議そうにしておられたことを覚えております。

杉本 その時分の先生のマルクスの讀み方というのは、むしろ正確にお讀みになつ

たのでしようが、どの程度の評價をされていたのでしようか。晩年の「唯物史觀經濟史出立點の再吟味」となるとすつかり批判的ですし、大體河上さんとの論争時代というのがたしか大正十年ごろだろうと思ひますが、あの時分には河上さんというマルクス學者に對するところから、非常に批判的でしたけれども、それよりも前にはどうだつたのでしようか。

高橋 福田さんは社會政策學會の重要なメンバーとして、社會政策主義で進んで行こうという考をもつて居られたので、マルクス主義には贊成することができなかつたのだと思ひます。そうしてちようど、ベルンシュタインなどのレヴィヨニズムが起つて、社會主義陣營の中からもマルクス主義に對する批判が起つたので、先生はこれに共鳴する所があつたのだと存じます。

杉本 そうすると、批判するために相手方の書物を非常にていねいに讀んだ、こういうふうな考えてよいのですね。

高橋 そうしてゐるうちに、先生一流の見解で、これまでのマルクス批判は不徹底

だということを描するのに力こぶを入れ出して来たのではないのでしょうか。ほんとうにマルクスを批評するならばリストテレヌスまで行かなければならぬ。これはそんなよ、そこの経済学者や社会主義者にはできない藪當だろうというところを見せたくなつたんじゃないですか。

杉本 先生は論争されるときに非常に相手方の書物をよく讀まれて、そこに引用されておるものを何でも原本にあたつて見るという、非常に學者的な用意をもつてされたと思うのですが、ああいう氣風はだんだんなくなつて行くのでしょうか。

上田 それにもう一つは先生道具立てが好きなんだ、學問の方でも。どうも凝り屋なんです。普通の集め方じゃない、先生のは。

大塚 杉本さんの今のお話の第一の點ですが、マルクスの用語につきましては、きつきの高橋先生のお話のように、大鑑閣で出版計畫があつたときに譯語集というのが數十ページできた。これを御参考になれば現在使つている譯語がその中にあつたかど

うかということとはわかりません。それからマルクスに對してどういう立場をとつていられたかということについては、福田先生はいろ／＼な事情に制約されておりますが、一つはブレントノ先生のお弟子だつたということに、たいへん大切な點があると思つてます。ブレントノ先生はドイツ社會政策學會のレフト・センターとでもいふべき立場にあつて、中央派の左の中心者だつた。その人がすでにエンゲルスと論争しておりまして。資本論の引用が間違つておると書物に書いておられます。やはりそういうようなものが日本の事情の變化についてだん／＼と出て来るのじゃないでしょうか。ことに私も先生を崇拜していた人間としては幸徳事件で先生はよほどお變りになつたのじゃないかと思つてます。

武井 連絡があつたかどうか、北一輝のことを先生しきりに言われたことがあつた。これは學問的にどのくらい、の値打があるか知らないが、讀めといつて讀ませられたことがある。

大塚 幸徳事件そのものが直接影響がな

くても、幸徳事件が起るような日本の社會事情になつていた。社會主義者もたくさんいろ／＼なものを書いていた。それで先生は、私有財産制度というものはどんなものであるか、原始共産制度というものがあつたかどうかというように心に關心を持つておられた。そうして穂積先生の隱居論を禮讚された。私どもには原始共産社會の制度を研究しろと言われて、その結論は福田先生のような結論にしなければ論文は通用しないと……(笑聲)あとから考えてみるに讀まなければならぬ大事な本は先生教えてくださらなかつたです。(笑聲)

高橋 先生には両面あつたようで、いづれの面が眞相か、ちよいと判断がつかかねる。私が學校を卒業すると間もなく、「最近經濟問題叢書」という題で隆文館から叢書を出す計畫があつて、それに當時の大家が皆名をつらねておられた。その中に私を一人先生加えてくれて、労働組合を書くことになつた。光榮に感激して、私は「コッ／＼とウエップを讀んだり何かして書きかけておつたのですが、なか／＼できない。そう

すると先生はたび／＼催促をしまして、何だつてもつと早く書かないのだと攻め立てる。實はこれ／＼こういうことをやつていまずと言つと、ウェップのような大きな本を読むのは容易なことじゃない、ヒストリー・オブ・トレード・ユニオニズやインダストリアル・デモクラシー、あれを参讀するだけでもなかなか／＼たいへんだ、これで



左 右田 喜一郎 先生

やれと言つて、グレゴリーと言う人の著書でしたか、小さい赤い本を持つて来て、これを貸すからこれでさつさとやつてしまえ。(笑聲)それでとう／＼私の勞働組合論は出すにしまつたのです。

井藤 赤松君がよくやつていられたのじやないですか。

福田、左右田論争

赤松 あれは、左右田先生が最初に「カント認識論と純理經濟學」を、大正四年ごろでしたか、國民經濟雜誌にお出しになつた。それに對して福田先生がすぐちよつとした返答をされておつた。それが非常に先生の念頭にあつて、ぼくら學生時代の大正八年あたりはずつと續いておつたと思うのです。結局、左右田さんとの論點は二つあるわけです。經濟學の認識論の問題と、社會政策の問題つまり生存權の問題、この二つにわかれて来る。この生存權の問題では論争がありまして、金井博士の記念論文集に書かれた「生存權の社會政策」、これで左右田先生に痛烈に當つておられる。

上田 あの演説は慶應でやつたのだね。

赤松 學問を少し離れますけれども、彼はブルジョアだ、私はそうでない、というような口吻が見えて來ますがね。(笑聲)それが一つと、それから認識論の問題はなかなか福田先生にはむずかしかつたのですね。大正六年、「カントの國家法律哲學管

見」とか何とかいう未定稿として出された、あれは何に出されましたかね。

井藤 非常に續くような……。

アダム・スミス生誕二百年祭

上田 あれは關係ないですか、アダム・スミスの記念祭か何かのときに演説されて、それが商學研究に載つた。それを杉村君がひどくやつつけた。あれは左右田が背後にいて、杉村をつついて書かせたのだ。左右田が杉村を使つて私の揚足をとらせているのだと言つておられましたかね。

杉本 これは大分あとで——高垣さんが編集者ですから。

高垣 あのときには、「厚生哲學の闘士」としてのアダム・スミス」というので福田さんが帝大で講演なすつた……。

井藤 スミスの記念祭のときですね。

杉本 そのときは高橋さんの御講演もありましたね。

高垣 高橋さんと早稲田の鹽澤さん。

高橋 それから山崎覺次郎さん。

高垣 「アダム・スミスの經濟思想の想

源」というような題で……。
高橋 アダム・スミスの生誕二百年記念
會だ。

高垣 杉村君が「倫理思想家としてのアダム・スミス」という題で商學研究に書いて、それを私が福田先生にお見せしたところ、よし、それじゃぼくがひとつ論文を書くと言われる。それで先生が書いて寄越



杉村廣藏先生

されたのを見ると、どうも理論的に學問的に論争しておられるのではなくて個人的なことが多い。それで私は失禮だと思つたけれどもそれを六號で組みまして雑報の方に入れたのです。先生怒られましたね、(笑聲)私にすぐ原稿を返せというのです。そのころ速達という制度がまだ珍しいころでありませんが、速達書留で先生が手紙を寄

越されて、返せということと、それから「貴下の御健康を祈り候」というような手紙の最後です。これはもう絶縁状ですよ。たいへんなことになつたと思ひましてね。(笑聲)私は黙つていれば福田先生に叱られ放しになる。自分にはやはり考えがあつたんだからそれをよく先生に申し上げればわか

つてくれるだろう、頭をひとつブンなぐられることは覺悟で先生のところに出かけて行こうというので、今の私ならようしないかもしれないけれども、先生のところに出かけて行きました、手紙をお見せして、實はこういうわけでこういふふうにいりましたと言つたら、叱られるかと思つたら、「それはそうだ、君の言う通りだ、實は私もそう思つていた、(笑聲)それを返してくれ、お前の言う通りだから、その原稿は私が加筆してもつと論文的なものとして國民經濟雜誌に出す。」ということ……。お出しになりました。

上田 何という題でした。
高垣 杉村廣藏氏の「福田博士のアダム・スミス論」に答う、という題でした。大正十三年五月號の國民經濟雜誌にあります。それで、叱られない、おまけにかえつてそれから用事がふえた。

高橋 あのときのことを思い出したのですが、あれは關東大震災の年でした、東大の記念會が大正十二年六月三日でした。

高垣 五日でしょう。

高橋 皆間違えて、アダム・スミスが洗禮を受けた六月五日を生誕の日と考へておつた。それで生誕の日には慶應義塾で記念會をやり、二日前の三日に東大がやるということだつた。そして、この三日の會には、一番先に鹽澤先生がやり、二人目が私で、三人目が山崎さん、最後が福田さんだつたんです。あのときに私は「アダム・スミスと重商主義」という話をした。そのときにちよつとアダム・スミスの倫理哲學體系に觸れ、アダム・スミスはやはり共感といいますかシンパシイをもつて倫理哲學の基礎たらしめたということを言つたのです。そうすると最後に登壇した福田さんはアダム・スミスの倫理學説は感情説だという解釋があるが、これは全然間違つてゐる、あ

くまでも彼は道徳を理性から推論するものだ、こうえらい劍幕でどなるのです。その演説が終つて、ちようど教會になつたときに私が場外に出ようとすると左右田さんが出口に立つていましたので、私が、「どうです、今の福田さんの講演は。」私が攻撃されたのでしょうか」と話しかけますと、

左右田さんは、「あなたの講演のときには福田さんはまだ来ていなかったようだが、要するにそれはやはり河上さんに對して言つたものでしょう」と言う。「それはそうとして、一體、あの説はどうですか」とききますと、左右田さんは直ちに「むろんいかんでしょう。」と答えたのですよ。スコットランド哲學の傳統からいつてそういう議論はなり立たないと左右田さんは言うのです。

上田 福田先生は大分思いつきもあつたのですね。

高橋 實にあつたんですよ。(笑聲)

杉本 アダム・スミスの記念祭といえば、たしか慶應の講演會へは三浦先生が行かれて話をされたんですね。

高橋 これはよい講演だつたけれども、

ただ先生、こういうかつこずで(机の上につつむき込み形)ノートを讀んでおられたでしょう。それに恐しく長い講演ときいてる。六月の五日で暑い日ですから聴衆は相當うだつたですよ。

藤本 「アダム・スミスの體系なき體系」。

高橋 英國人としてのアダム・スミスですね。

福田博士とカント哲學

板垣 さきほど赤松先生のお話の中の左右田・福田論争のところを一寸補足いたしますと認識論の問題では福田先生は左右田先生にたたかれました。つまり「カント認識論」と純理經濟學で、左右田さんは福田經濟學は認識論的に學問としての經濟學になつていないときめつけられた。それに對して福田先生がどう答へられたかというところ、左右田先生に答へたという一頁たらずの短い文章で、結局左右田先生は哲學者で、自分は經濟學者である。両者はついに相會する能わざるなりというのです、しかし、左右

田さんの批評はよほど福田先生の頭に残つていたのでないでせうか。私が大學に入つてはじめて福田先生の經濟原論講義を聞いたのは昭和四年でしたが、そのときは既に左右田先生は亡くなられたあとでした。

そのときの講義の劈頭に福田先生は次のように云われました。諸君、經濟學を學ばんと欲すれば哲學を學ばざるべからず、哲學を學ばんと欲すればカント哲學を學ばなければ、カント哲學を學ばんとすれば、第一批判、第二批判、第三批判とあるが、その中でカントみずから書いた入門書プロレゴメナを讀むに如かず、と言われて、これを中心に二回、四時間の講義をされ、それから經濟原論の講義に入られたのです。そういう點でどうも福田先生は左右田さんが亡くなつたら、急に諸君はカント哲學をやらなければいかぬということを學生に激勵されたような形になつて、先生一流のあまのじゃくなところを示されたと思うのです。

上田 哲學はどうもわからぬ、哲學と農業はわからない、百姓のことはどうも實感

がない。この二つはわからない學問だと言
つておられましたね、實感が無いと……。
赤松 あの認識論ではどうしても答える
ことができなかった。實際影響を受けられ
たですね、左右田さんに。つまり貨幣中心
的な考え方は國民經濟講話に非常に出てい
ると思うのです。貨幣中心的に經濟學を認
識しようという氣持ですね。



三浦新七先生

杉本 ぼくらが講義を聞いた時は、福
田先生は貨幣中心よりも資本を中心に考え
る、ことに餘剰價值を中心にして考えなけ
ればいかぬと言われました。そう言われる
ことによつて、あれのあの厚生經濟學の
原理が出て来るのですね。
赤松 厚生經濟學の前です、私の言う
のは。

井藤 改訂經濟學講義、大正四年の第一
巻、あれに貨幣中心主義を大分出されてお
る。

貨幣價值論争

赤松 あの頃二つばかり論争があります
ね。つまり貨幣の限界效用遞減の問題と、
もう一つ企業と經營概念についての……

板垣 貨幣に限界效用ありやなしの論
争……左右田先生の言う貨幣というものは
單なる媒介價值ですから、單なる媒介價值
にすぎないならば、そういう媒介手段はい
くらあつても效用が遞減するようなことは
ないはずだ、というようなことから始まつ
たのでしたね……

高垣 そうです。

赤松 あれから左右田先生が死なれた。
そうして昭和二年に、左右田先生の追悼の
意味で、經濟往來へ書いたのが杉村君の逆
鱗に觸れてしまった。つまり貨幣價值に限
界效用遞減法則を認めぬのは資本主義的精
神だというようなことを書いた。

井藤 君がか。

赤松 そう。それが非常に杉村君なん
かを怒らせたらしいのですがね。つまり貨
幣は手段ですから、物については限界效用
遞減が起るけれども、手段だから起らな
い、だからそれは資本の無限増殖を意味し
ているのだとぼくは解釋して言つたのに對
して、ブルジョア經濟學者の誤解だといつ
て非常に叱られた。

板垣 福田先生は講義のときに、商科大
學における經濟學の一番よいところは、プ
ルジョア經濟學とマルクス經濟學を第一講
義、第二講義という形で併行講義でやつて
いる。こういうところは他の大學にない
ところで、一番よいところだ。自分の講義を
聴く人は同時にまた大塚君の講義を聴き給
えというわけで、兩方聴いて勉強せよとい
うことを言われたのですが、そういう形
で、商大の經濟學の講義は非常に幅が廣い
ことが特色だつた。

赤松 大塚先生のマルクス研究の動機は
何ですか、お伺ひしたいのですが。

大塚 動機は第一次世界大戰後における
ドイツにおいての生活の體驗からです。

一橋歴史學研究の學風

増田 大分福田先生中心におもしろいお話が伺えたのですが、今日の學校の歴史學を見てみますと、私たちが歴史を習いしたころには三浦先生は講義を持つておられませんが、今は卒業したあとでしか講義は聞けなかつたのですが、丁度、幸田先生



幸田 成友 先生

が日本經濟史の講義をやつておられた。それと並んで瀧川政次郎先生が日本法制史をやられた。そして非常に地味な、實證的といいますが、史料中心の研究法を、私共はたたきこまれたものでした。例えば幸田先生のごときは、先ほどどなたかお話が出ましたように、オリジナルな原本に當つて研究をする、それがどんな効果があつても

なくても、とにかく原本を見る、ごまかすことは絶対いかぬということを、身をもつて教えられた。これはきわめて簡単なことですが、その簡単なことが歴史の研究では非常に必要なことなのです。史料を集めて、そしてこれを正しく理解して理論をたてる。思いつきは絶対いかぬ、そういうふうには實にやかましく教えこまれたわけですね。こんなわけで、私共が一橋で歴史學を勉強しました時には、一方において三浦先生のように非常に大きな世界史の體系といつた方向を狙うような學問もあるし、他方、今の幸田先生や根岸先生のようなこつこつとやつて行く學風もあるわけで、非常に私ら歴史をやるときに困つたのです。しかし一橋の歴史學を考えてみますと、極めて一般的にいって先生から弟子へと順について行くというものが案外少ないのでして、外から入つて來られた偉い先生方の影響がボツ／＼とあるわけです。そういうわけで、一橋の歴史學は一般に皆一人で勝手に自力でやらなければならぬというやりかたに置かれていたとも考えられます。そこえもつて來て學校の中で歴史學に置かれているウエイトというものが非常に少い。極く最近に至るまで歴史學はその他の部に入つておりまして、語學と同じように扱われておつたのです。これは實は、私非常に不服でした。尤もこのごろは大分變つて來たようですが、何かまだ弱いような感じがいたしました。そういうわけで歴史の研究室には、良い意味でも悪い意味でも、いわゆるギルド的なものはないのですね。それで結論的に申しますと、一橋の經濟史學は、傳統がないといふことがそのままあたかも傳統となつていふと言いますか、大分他の古い大學の史學と異つた趣があるように思います。

上田 それは歴史の方でしょう、ほかにあつたよ。

増田 ほかに勿論あるようですが、私は歴史學の方には殆んどないといひたいのです。つまり一本立ちで、その意味では非常に素人くさいのですね。素人臭いのだけどもまたそこにはよい面もある。一口に申せばどの先生もあまり専門家振らないんですね。素人が歴史學をやつていふといふ

ので、東大なんかに見られないおもしろい味が出ている。ぼつぼつと一人ずつ苦しみながら、興味をひかれるままにいつの間にか歴史學を専攻した結果となつてゆくのです。従つて、歴史學は經濟學やその他の領野とは大分違つた色彩を持つてゐるのじやないかと思ひます。古くは菅沼貞風、横井時冬、近くは根岸先生、幸田先生、それか



根岸先生

ら瀧川先生などのやられましたことも、私どもの習いましたころにはたとえ一部の學生にはありません。また今日、その意味をもつともつと高く評價すべきではないでしょうか。それからそのあと金子先生や猪谷先生がおられました。特に幸田先生、根岸先生なんかの學風はもつと生かすべきぢやないかと思ひ

ます。それから何よりも重視すべきだと思われまふのは、上田貞次郎先生のイギリス社會の研究であります。これはもつと盛んにすべきであり、本學の如きところでこそ、近世史がもつと盛んになるべきだと考へます。一橋の歴史學の傳統なき傳統を想うにつけ、私は始終このように考へるものです。そしてこのことは一橋が今後四つの學部をもつて經濟史、歴史學等を發達させる方向を示唆するものとして、深く考へるべきことだと思ひます。

大塚 今根岸先生のお話が出ましたが、私學生時代に根岸先生の講義を聞きましてたいへん感銘を受けました。支那經濟事情講義ノート三冊、今でも大切に保存しております。これは大正三年のノートです。

上原 最近こういうことがありましてね。京大に人文科學研究所というものが今ありますが、つい十日ほど前にそこへ行つたときに、商科大學にはいろいろ歴史、經濟史の先生が出ておられる。古いところから言へば横井時冬さんとか幸田成友さん、だとか、亡くなられた三浦新七さんとか出ておられる。そのほかに福田先生も歴史に對しては非常に關心があり、またそちらの方の仕事もしておられる。そういう傳統が一體どうしてできたのだろうか、今でも商科大學では經濟史の研究や歴史の研究が盛んなような印象を受けるのだが、それは一體どういふものだろうかというやうなことを人文科學研究所の人が熱心に聞いたので、それで困りまして、ちやうど増田さんの言われたやうに、そういう傳統はあるやうなやうなもので、なか／＼答へにくい。結局われ／＼も歴史の勉強はあそこでやつておるけれども、そういう傳統の中で仕事をやつていふやうな意識があるやうかということになるとこれはちよつと疑問なんだ。第一に人もごく少いわけですし、その方面の資料とか文獻とかが豊富にあるわけでもなし、そういうところでやつていふだけの話で、傳統らしい傳統もない。そういうふうに言ひましたら、それでも何か活潑な研究をよくやつていふやうな話ですか、それは今お名前が上つたやうな人は、皆傳統の中でやつていふのでな

くて、自分で何か仕事をして来た人なんてある。結局歴史に關する傳統といふことを言うとすれば、傳統らしい傳統はなくて、いつでも自分で何をやつてもよいし、同時に何もかも自分でやらなければならぬようなそういう傳統がある。京都の人文科學研究所の方のことは知らぬけれども、師匠と弟子との間がちゃんときまつておつて、弟子は師匠の方法とか問題とかを引繼いでやるわけでもない。何でも出發點から自分でやる。と同時に先生から習うことは自分の問題にしなければならぬ。人のことをただ祖述することはいけないので、問題は自分で考えて自分で方法を工夫して行かなければならぬのだ。ことに今の幸田先生とか三浦先生とかいう偉い先生が知られて、その中で若いものが自分で問題を發見し、自分で方法を立てるといふことになつて來るとたいへんだ。しかしそれをやらなければならない。自分もその氣になつてやらなければならないかぬどい氣になる。そういうところに強いて言えば傳統があるかもしれない。もう一つは歴史に關する限りでは、人が非常に少いのだに、やらなければならぬ面が非常に多いといふので、専門がきまらない。中世史なら中世史をやつてゐるものがあつても古代もやらなければならぬし、近世も場合によればやらなければならぬ。經濟史の研究だけでは足りなくてまた方法の問題についても考えてみなければならぬ。西洋のことだけでは不十分だからと言われて東洋のことやらなければならぬといふぐあい専門がきまらない。そこで、問題を割合に新鮮な形でとらえることはできるけれども、一定の方法で熟せしめて行くことができない。そういうようなことが自分でも缺陷だと考えられる。ただ他面始終問題が新しいといふことと、その問題を取上げる場合に、別に傳統というようなことを考えないで、自分でその問題をつくつて行くことができる。何をやつておつても、同僚からお前何をやつてゐるのだと言われることもなければ、自分の専門から割合に離れたところをやつておつても、なぜそういうことをやるのかと言われる氣遣いもない。勝手に好きなことをやらされておる。

そのところがよいと同時に悪いところでもあるので、多少新鮮だといへばそういうところだろう。一口に言えば商科大學というものは貧乏世帯のやり繰り世帯だから結局あなつてしまふというだけで、商科大學の歴史學の傳統があつて、道ができていると言われるのはまことに恐縮なんだ。こういう話をしたのですが、増田さんの今言われたのと同じような氣がするのですね。それにしても、これからは、まずい因習とか陣腐な方法とかいふものがいつまでも行われているというのは感心しませんけれども、もう少し熟して研究ができて行くような状態になつて行くのが望ましいのじゃないかと思つてますね。

上田 手工業的ですね、まさしく。(笑聲)

杉本 その點は、商科大學だけでなく、日本の學界の特殊性なんですね。何か學界というようなのが客觀的にあるという感じが無い。西洋の學者が感じてゐるようなものをもつていない。

マーシャルの大塚譯

上田 どうでしょう、少し話題を進めまして、先ほどちよつと問題を出しました終戦後の商科大學の經濟學についてお話願えないでしょうか。その關連になると思いますが、そして時代は少し前ですが、大塚さんがマーシャルの「經濟學原理」を翻譯さ



添田 壽一 先生

れたということは後進にずいぶん大きな刺激と用益を與えていると思います。これは大塚さんを前において言つてはあなたに照れるかもしれませんが、随分大きな仕事です。地味な仕事ですけども影響から言つてたいした仕事だと思えます。それで杉本さんどうでしょう。マーシャルをああいふうに日本のものにしてくださったという

こと、後進があれによつてマーシャルをほんとうに知ることができ、その上に築くことができたという事情はありましようね。

杉本 それはあると思えますね。マーシャルを日本にお入れになつたのは、ほかの學校では知りませんが、學校では福田先生がまず經濟學講義にマーシャルを中心にせられて、そのあとと言いますか、同時にすか、大塚さんの名譯が出て……。ヨーロッパから歸られて出されたマーシャル原理の翻譯が洛陽の紙價を高からしめたのですが、私はマーシャルの譯ができて日本におけるイギリス經濟學盛行の第二期が始まつたんじゃないかと思えますね。

上田 そういうエボック・メイキングなものだね。

杉本 ミルによつて代表されるイギリス經濟學は明治三十年代——それが日露戦争前後の日本の社會情勢の變化にちよつと相應じなくなつて、それから歴史學派が入つて來、それも間もなくなくなつて、限界效用學派などが出たのでしようが、イギリスの經濟學というものがほんとうにわかつた

というか、打込んで勉強するという氣風は、大正の中期ごろですね。

上田 だから、ケインズを今ずいぶん大騒ぎしておるが、マーシャルの翻譯があつたということが大きな前提であると思う。そうすると大塚さんの功績はたいしたものだとぼくは思うな。

高橋 マーシャルの日本の高弟は添田壽一さんでしょう。ちよつと私がロンドンへ行きましたのは一九一一年なのですが、そのころはもうマーシャルはまづたく客に會わないのですよ。小さな建物に入つて、奥さんを助手に使つて、こつ／＼と著述の筆を運んでいて、だれにも會わない。ところが添田さんがロンドンへやつて來た。そうすると、この人だけにはぜひ會いたいということ、會つた。皆羨しがつたですよ。お弟子じやなかつたでしようかね。

杉本 マーシャルの傳記を書かれましたね、添田さんが。日本で書かれたのは添田さん、それから上田辰之助さん。
上田 今のお話で、ちよつと一橋から離

れますが、あなた（高橋氏に）のところにブエキヤナンという先生がいたでしょう。あの人がマーシャルの學説を批評して三田學會雜誌に出したのを劍橋のマーシャル先生のところへ送つた。そうしたらマーシャル先生から返事がきて、あなたの議論は自分が答えれば立ちどころに紛碎できると思ふ。しかし自分は歳をとつてから一切の論



高橋美夫先生

争に携わらないことにしている。だからいま貴論には觸れないが、一撃のもとに紛碎できる自信はあると書いてあつた。そうです。ブエキヤナンさんがそう言つていました。それくらい論争もやらなければ人にも會わない。添田さんだけは特別だというわけですね。

高橋：ブカナンの研究は「限界生産費と

經濟地代」、そういうのじやなかつたですか。それから大塚さん以前には井上辰九郎さんのエレメントの翻譯があつた。鹽澤昌貞さんが序文だけを翻譯して、すこぶるまづい翻譯だつたけれども……

上田 大塚さんの譯著の初版には序文中に、「英國文化の權威者上田辰之助」といつてほめて書いてくれたのがある。それが何時の間にかけずられて、今はなくなつてゐる。どういふわけだか僕は大いに失望してゐるんだ。（笑聲）

井藤 もう認めなくなつたんだ。（笑聲）
上田 しかしぼくはそれに大いに刺戟されて、勉強しました。そう簡単に見捨てられるくらいなら勉強しなければよかつたんだが、……

高橋 それから井上さんの以前に高橋是清の「勤業理財學」という翻譯があつた。エノミツクス・オブ・インダストリーの翻譯だ。

大塚 明治十九年です。
高橋 インダストリーを勤業と譯して、私は初め勤業かと思つたら、勸業です。

アダム・スミスの翻譯のときにインダストリーの譯語が問題になりましたね。

高垣 福田先生の、慶應で講義なすつたときに出了た經濟學講義、大きなきれいな本でしたが、あれがマーシャルのプリンシプルでございましょう。

高橋 あのときは三人で講義した。氣賀勘重さんと堀切善兵衛さんと福田さんが、マーシャルを使つて、同時に組を分けて講義をしたのです。どれが一番名講義かというわけだ。堀切君は福田さんの講義はマーシャルを正解してゐない、おれの方が正しい、おれはマーシャルの直接の弟子だと云つてゐた。

上田 あれは印象が深いな。あの本は落着いていて深いですよ。大倉書店から出したのです。紙がよくて……。序文に奥さんのことをほめてあつた。

統計學の傳承

杉本 經濟學や經濟史のお話が出たのですが、統計ですね。最近は經濟學をやるにはどうしても統計學が必要だ。今まで經濟

原論をやる人は、經濟學史か經濟史をやつておられる。ところが最近では經濟原論をやる人は同時に統計をやる、こういう傾向が強くなつた。兩方必要だと思つたのですが、學校では福田先生が同時に統計學も講義されておつたんですね。それから藤本先生にバトンが渡つたのですか。

井藤 瀧本美夫さん。



内池 廉吉 先生

藤本 瀧本さんにぼくは半年教つて、半年は内閣統計官の高橋二郎という先生に教つた。

上田 私どもは高野さんに教りました。が、そのうち藤本さんが歸つて来るからとよく講義の中で言われました、それまでです、と言つて……。

藤本 まつたく隔世の感がありますね、

一橋經濟學の七十五年

學問の風が。

上原 大正何年からですか。

藤本 大正三年からです。いろ／＼なものを教えなければならぬ、それを専攻するわけに行きませんでしたけれども……。非常な進歩ですね。今商科大學の學風を私が客觀的に外側からながめると、あなた方の學問にほとんど滲潤してそういうふうに行つてゐる傾向を非常に強く私に反映しますよ。統計學の大家が揃つておられて、それを利用していただくので、學問の氣風が非常にかわつてゐるような感じがする。それが私どもの學生時代と顯著な違いですね。あのころはほとんど數字なんか使わずに、抽象論が多かつた。

財政學の瀧本、内池

武井 財政學はいかがですか。

井藤 財政は一つはコンマ以下の低級科學だと……しかし何といつてもこれはさつきいつた瀧本美夫さん、あの人は非常に偉い。ぼくはいつか一橋新聞に書いたのです。ぼくら先輩だから持ち上げる、そんな

ケチなのではなくて、これは非常によい人です。というのは、福田先生と違つて地味な人ですけれども、瀧本先生の本を今讀んでもまだ間に合ふ。明治三十年代の社會科學は大體今では間に合はぬ。それが今でも間に合ふということは今の財政學が進んでおらぬとも言える、と同時に瀧本先生が非常に偉かつたとも言えるわけです。ぼくは瀧本先生の類は知らぬのです、習つたことはないから。ただ工藤重義という會計検査院の先生、講師ですが、あの方から財政を習つた。そのときにただ一つの參考書をおげられた。大正六年でしたが、それは瀧本美夫先生の財政學講義だと。それで、確かに古本屋にあるというのでぼくは買に行つた。なか／＼よくできてゐる。それからワグナー氏の財政學、明治三十七、八年ですが、それはぼくが財政學を研究するようになってから現に今でも間に合ふ。ワグナー氏の全四巻を讀んだ人は世界にほとんどない。日本人は一人も讀んでおらぬ。それは瀧本先生のよい紹介があるからだ。ワグナー全四巻、第一巻、第二巻の要點を非常

によく書いてあつた。くだらぬ批評なんか書いてもらうとかえつて困るが、そんなことは全然抜きにして、およそ忠實に紹介している。抄譯ですが、これは非常にいいので、今でも財政學者が盛んに勉強している。財政學を勉強する者は皆それを読む。それで用を足す。それだけ財政學者が勉強せぬとも言えますが、瀧本先生の財政學は



上田 貞次郎 先生

専門家では非常に高く評價されている。ただ早く學界を引退されたことと、性格が非常に地味なんです。顔を見ても地味な顔をしておられますよ。根岸先生みたいな顔をしておられる。ぼくは瀧本先生はとにかく明治時代の財政理論家としては大きな存在だつたと思う。田尻稻次郎先生だとか、堀江歸一先生だとか、松崎藏之助さん、み

な大きな存在ですが、しかし瀧本先生のは學者生活が短かつたので割合に注目されておらないが、これは無視することができない大きな存在だと實は一橋新聞に書いたことがある。

武井 亡くなつたのですか、實業界に入られたのですか。

藤本 銀行に入られた。

井藤 三十四銀行に入られた。それから

内池先生の財政學は世界ユニックです。財政學者というと公法學者か經濟學者、政治學、社會學者……。ところが商業學者から財政學者になつた。まず世界ユニックの存在です。高等商業なんかでは人が足らぬので、財政學は低級科學だからついでにやれ

といふことでやりますけれども、内池先生のはついでにやられたのですが、りつばな

「財政學概論」という本を書かれた。あれ

を見ると商學者でなければ言えない主張があるのです。財政學というどつちかとい

うと官僚側の學問ですよ。ところが内池先生のはどつちかといふと人民側、素町人側の立場から見た財政學で、その點で特徴が

あるのですね。だから内池先生は、世話になつた先生だから言うわけでなく、公平に見て確かに異色ある存在じゃないかと思ひます。

武井 内池さんは私も懇意にしておりましたが、カリフォルニア大學に二度目の洋行のときに行かれましたね。先生はアメリカの色彩があるでしょう。アメリカの經濟事情という本がありますね。當時あんな本はないので非常に珍重されました。明治時代ですね——大正になつてからかな。掘り出せば先輩には偉い人がたくさんありますよ。

武井 内池先生は上田先生と同時に推薦された推薦博士ですね。

上田 推薦博士。

武井 一番終いですがね、推薦博士の。
井藤 最後じゃないが最後に近いです。多分大正七年か八年くらいです。

上田 山中さん、上田先生についてもう少し……。

上田博士の學的態度

山中 上田さんの方は、このごろの意味でのイギリス経済學の傾向とは違うのですけれども、イギリス式のゼントルマンというような感じを持つている學問の行き方で行かれた。先ほど産業革命史論の話が出たが、あれなんかある意味で、アッシュレー先生のエコノミックス・オーガニゼーションの大體十九世紀以降が薄ですから、その十九世紀以降をアッシュレー先生のやり方に近い意味で延長したものが産業革命史論じゃないかと思えますね。だから非常にイギリス的で、三浦先生がいわゆるような意味でのドイツ的デンケンでは確かにないけれども、しかしやはり上田式の學問といふのは始終問題を自分の前に置いてそれを追いかけて行くという意味では、非常に學問的だつたのじゃないかと思えます。

増田 學長をしておられるときに、私どもに大學からの歸りの電車の中なんかでいろいろ話を上田先生よくなされました。よく聞かされました中にこんな話がありました。學問は一生の中にはテーマがかわるといふのですね。そのチャンスをつかまなけ

ればいけない。つまり或る考え方の固定化する危険のある時には脱皮する必要がある。自分で自分の殻を破れというのです。それともう一つは、一つことをやつておれば他人の言うことは一見違つた領域のことでも非常によくわかる、深くやればそれだけ穴の入口が大きくなる、高くなる。ばそれだけ視野が廣くなるから人のやつておることはよくわかる。人が何と言おうが、あなたがこれがテーマだと思つたこととはうわさにかかわらずにやれ、そして脱皮のチャンスをつかむということ、一つことを熱心にやれということをよく言われました。それから學長のところに、自分は今忙しければ、今度ひまができたら日本經濟史をやりたいと思つておられました。先生には經濟史學への興味が非常に強かつたと思えます。

杉本 そういう關係で考えるのですが、學校の經濟學の他の學校の經濟學に對する特色があると思つたのです。それは、先ほどちよつとお話が出たのです、あらゆる學派について萬遍なくやる。この學風は福田先生から出たと思つたのですが、もう一つは學校の經濟學は非常にアカデミックなものですね。東大の經濟學を見ますとすぐ實際問題にぶつかる。ところが商科大學の經濟學は一應文獻を通してやる。これはよい點もあれば悪い點もある、一體それがどういふところから出たのだらうか、これが一つ、もう一つは、しかし商科大學の中でも社會と直接接觸した方がなかつたわけじゃない。その一つが福田先生の黎明會の運動と上田先生の新自由主義運動、あれは社會に直接結びついている。で、學校の經濟學がなぜこつうふうにアカデミックであるかといふことと、もう一つはそういう黎明會とか新自由主義といふように社會と結びついた學者がでるが、すぐそれがなくなつてしまふ。それは一體なぜだらうかといふことです。

一橋の學風——グルンド リッヒに

上田 なくなつてしまふという意味は立消えになつてしまふという意味ですか。

杉本 やはりすぐ文獻に戻つて、文獻から社會を見るということになる。そのまま社會の中に入り込んでぐるをまわるといふことがない。

上田 たとえば新自由主義運動について上田先生は相當やられて、これで國民啓蒙の任務を果たしたからやめるのだと言つてはつきり結末をつけてやめてゐる。

山中 言いたいことを言つたからやめると言つて……

上田 だから立消えじゃないのだ。

高垣 杉本さんの今言われた中の第一の點に答えるかどうか知りませんが、私はいつもその點はほんとうにそう思いますが、それでわれわれは一面簿記とか商業實踐とかそういう實務的なものを東大の連中や外の連中がやらなくらいたくさんやる。それで學問的なことと言わば飢えてゐるというか、これじゃ學問にならないという氣持が非常に強いものだから、それで學問にぶつつかつたときに今度は深く行くのじやないか。私どもは一面商業技術的な學問をたくさんやるということがそうさせておるのじやないか。その一つの證明になるかどうか知りませんが、商業學校を出て商大へ来た人がことに哲學に憧れる。そういう方法論だ何だということをやかましく言うようになる。私はやはりそういうサイコロジじやないかという氣がするのですがね。

上田 今のことに關連して、あなた方覺えていらつしやるでしょうが、私どもが卒業して學校に残つたときに佐野さんがどう言われた。自分たちはもう行詰つてしまつて、商業學でやることももう先へ伸びない、どうしても諸君はグルントのことをやつてくれ、留學するについてはその心掛けで勉強しろというので、みな研究科目を二つずつ持つて行つた。高垣先生は金融と心理學、高瀬君は簿記と社會學、それから大塚さんは……何だつたか覺えていないが、そういううぐあいに皆兩刀をさして行つた。それが大分あとに影響している。グルントをやれ、グルントをやれと言われて皆やつたのですよ。また當時の世界の情勢がグルントを持つて行かなければわからないような情勢だつた。さつき大塚さんの言われたことはそれに觸れると思ひますが、そういう社會情勢であつて、皆それらの光においでやつて来た。私などはたいしたことはやらなかつたけれども……

高垣 内藤君が盛んにグルンドリッヒ——グルンドをやれと言ふものだから(笑聲)杉村君が内藤さんは始終グルンドばかり言つていて上に出て來ないからあれはもぐらだと言つたことを思い出す。(笑聲)

増田 私も學生のあのころグルンドリッヒという言葉がはやつて、何でもグルンドリッヒといわれたのを覺えています。

上田 それではまだ商科大學の經濟學の歴史は無盡藏でありますから、夜明けかしても間に合いますまい。そこで大體今度はこのくらいにしておきます。またの機会にいたしたいと思ひます。本日はどうもありがとうございました。

〔カットは大正三年の東京高商の全景〕